

園長だより「爪が伸びています」 第27号

事務室で仕事をしていると、毎日、保育教諭と手をつないだり、抱っこされたりして事務室にやってくるお子さんがいます。

「園庭で転んでひざを擦りむきました。処置をお願いします。」

「お友だちとおでこをごつつんこしました。冷やしてあげてください。」

その度、看護師が対応してくれています。泣きながら事務室に入ってくるお子さんもありますが、看護師が優しく対応することでホッとして泣き止んでくれるお子さんが多いようです。

ただ、お子さんが事務室にやってくる理由の中には「ん？」と思うものもあります。その一つが「爪が伸びていますので切ってあげてください。」です。

この年齢の子ども達にとって爪が伸びていて得をすることなど何一つありません。

城東ちどり保育園でも何かのはずみでお子さんの爪が割れてしまったり、わざとでないのですが、遊んでいるときにお友だちの顔に爪が当たって、ひっかいたような傷をつけてしまったりする事故も発生しています。そのような事故が少しでも減少するように保育士は登園してきたお子さんの爪が長く伸びていないか気を付けて見るようにしてくれています。当然のことですが、お預かりしているお子さんの様子をしっかりと「見る・観る・看る」ことは保育士の大切な仕事の一つです。

でも、このことが私の中では「ん？」になっているのです。

「お家の人はお子さんの爪が伸びていることに気がつかなかったのだろうか」

皆さんは日々お子さんに惜しみなく愛情を注いでおられるでしょう。手をつないだり、抱っこしたり、一緒にお風呂に入ったり、ご飯を食べたり……。日々、お子さんのちょっとしたしぐさや表情からお子さんの考えていることや成長したことを感じ取ることができるのが皆さんです。誰よりもお子さんのことを「見る・観る・看る」ことができるのも皆さんだと思います。確かに城東ちどり保育園の保育士も頑張ってくれてはいますが、皆さんとは比べようもありません。

皆さんはどう思われますか。「ん？」と思ってしまう私が間違っているのでしょうか。これからも変わらず、私たちはお子さんの爪が長く伸びているのがわかれば切るようになります。でも、城東ちどり保育園ではできるだけ保育士の「爪が伸びていますので切ってあげてください。」という言葉聞くことが少なくなればいいなと思っています。皆さんがお子さんを膝の上に座らせて、小さな手を優しく持ち、伸びた爪をパチンパチンと切るというのが微笑ましくていいですよ。子育ての終わってしまった私からすれば少しうらやましくもあります。

どうかこれからも爪の長さだけでなく、愛情を持ってお子さんの全てをしっかりと「見る・観る・看る」ようにお願いいたします。